

令和4年秋 大学院医学薬学府学位記伝達式 学府長式辞

修了生の皆さん、おめでとうございます。研鑽を積み立派な学位論文を纏められた皆さんのご努力に敬意を表すとともに、皆様とご家族、そして関係者の方々へ医学薬学府の教職員を代表して心から祝福いたします。

このめでたい機会に、医学薬学府長として、皆さんの門出を祝い、お話したいと思えます。少し昔のことですが、皆さんの大先輩に赤堀四郎先生がいます。赤堀先生は、千葉大学の前身である千葉医科大学の薬学専門部を約100年前に卒業し、大阪大学総長や理化学研究所理事長をされました。大阪大学に蛋白質研究所を創設し、日本の生化学の土台を造られたことで有名です。お弟子さんも多く、山村雄一先生、がんウイルスの研究でノーベル賞候補と言われた花房秀三郎先生、私の恩師の岡田吉美先生もいました。

赤堀先生はドイツ語の *gegeben* された所から考えなさいと言われたそうです。イギリスのマーチンとシングはペーパークロマトグラフィーを開発し1952年にノーベル化学賞を受賞しました。今ではほとんど使われなくなりましたが、この濾紙と言う白い紙で分子を分ける単純な方法です。この手法を用い、サンガーはインスリンのアミノ酸配列を決め1958年に1つ目のノーベル賞を受賞しています。当時は大戦後の間もない頃であり、困窮する中でも、工夫次第で、どこにでもある材料を使って大発見ができるという意味で *gegeben* された所と表現されたのだと思います。

現在、私達は、多くの問題、気候変動やロシアのウクライナ侵攻、新型コロナウイルスなどを抱え、歴史的な転換点にいます。正解が簡単に見つからない問題ばかりで、正に皆さんの優れた能力を生かす時代です。本日、博士号という世界に通用するタイトルを得られた皆さんは、その能力を世界のために遺憾なく発揮して欲しいと思います。修士号も立派な学位です。学位を手大きく羽ばたいてください。

いかに大きな成果も、多くの先人の努力、1つ1つの地道な積み重ねの上で出来ています。皆さんは、自分の研究において既に世界の第1人者だと思います。これからも一步一步着実に歩み続けて欲しいと思います。また、皆さんの研究を、多くの人に伝えること、例えば、皆さんのお爺さんお婆さんが分かるように説明できることも大切です。大学や研究の場を超え、社会と連帯し、多くの方から応援されることも重要になっています。

皆さんが世界の様々な場で大いに活躍されることを心より祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。本日は、誠におめでとうございます。

2022年9月28日

大学院医学薬学府長 斎藤 哲一郎